

平成29年度第2回池田市行財政改革推進委員会 議事要旨

【と き】 平成29年9月26日（火） 午前10時00分～午後11時30分

【ところ】 池田市役所 3階 議会会議室

【出席者】

■委員：佐々木会長、村瀬副会長、蒲生委員、高島委員、牛嶋委員、榎本委員、
中西委員

■事務局：北浦市長公室長、松浦総合政策部長、藤井人事課長、森本財政課長、
財政課富永主幹、財政課石川主任主事、財政課中村主任主事

【傍聴者】 0名

【内 容】

1) 開会

＝事務局から配布資料の確認＝

＝佐々木会長から本日の進行について説明＝

2) 議事

池田市行財政改革推進プランⅡ平成28年度最終報告（案）について

＝事務局から配布資料について説明＝

＝第1回委員会後の修正箇所について説明＝

委員：それではまず、資料1の27ページの「意見書（案）」についてであるが、事前に各委員に対して、第1回委員会での各委員の意見等を踏まえ事務局と共に作成した案が各委員に送付されたと思うが、それに関して事務局に何か意見等が届いているか。

事務局：本委員会開催前の時点で届いていない。

委員：了解した。それでは「意見書（案）」の内容について、各委員の意見等を改めてここで聞きしたい。

委員一同：（異議なし）

委員：それでは「意見書（案）」についてはこれで確定させていただく。他に議題等はあるか。

事務局：前回の委員会の中で、平成28年度におけるプランⅡに掲げる目標の達成状況については説明させていただいたところであるが、経常収支比率や中期目標として掲げている臨時財源補填なしの形式収支黒字化など、すべての目標を達成できた平成28年度決算の内容について、概要を説明させていただきたいと考えているがどうか。

委員：了解した。

事務局：(平成28年度決算概要について説明)

委員：財政調整基金の積み立てを1億円程度ではなく、もう少し増やすことができなかったのか。また、市債の臨時財政対策債については、ここまで発行しなくても良かったのではないか。

事務局：財政調整基金については、今回の決算を受け、約9億5千万円の黒字額の中から6億円を財政調整基金に積み立てたところ。そのため、平成28年度末の財政調整基金の残高としては45億円あまりだが、決算後に6億円を積み立てたため、今現在は瞬間的に50億円を超えている。ただし、平成29年度については、今後取り崩しがあれば、その後の額が最終的な決算の財政調整基金残高となる。また、臨時財政対策債については、国が定める発行可能額から若干減額しており、さらに、借換債については、過去に発行した退職手当債の借り換えを3億円程度減額したところ。

委員：地方交付税が前年から増加している主な内容は何か。

事務局：国の算定ルールに基づいた基準財政需要額と基準財政収入額の差が地方交付税として、国から補填される仕組みとなっており、今回大きく増加している要因としては、本市の基準財政収入額が前年度と比べ大きく減少した結果、地方交付税が増加となったもの。市税収入として歳入で受ける額は増加しているが、国が地方交付税を算定する際の前年度をベースとした標準的な収入額は逆に減少したため、地方交付税額が増加したもの。

委員：平成28年度決算では市税収入の増加等により歳入が増加するとともに、歳出が減少したという説明だが、このような場合に平成29年度の地方交付税は減少することになるのか。

事務局：減少する要因にはなるものの、それ以外の要因の影響が大きいため、結果的に平成29年度の地方交付税の算定では大きく減少していない。このように1年遅れで影響が出てくる部分と、当年度の要因とが合わさって、各年度の地方交付税が決定される。

委員：翌々年度の平成30年度の地方交付税は一層厳しくなる可能性があるのか。

事務局：国の地方交付税総額がどうなるかを含めて、様々な要因があるため、現時点でどうなっていくかというのは予測しづらいところ。

＝佐々木会長から松浦総合政策部長に「平成２８年度における池田市行財政改革推進プランⅡの取組状況に関する意見書」を手交＝

＝松浦総合政策部長から佐々木会長に「平成２８年度における池田市行財政改革推進プランⅡの取組状況に関する意見書」をいただいたことへのお礼の挨拶＝

＝事務局より各委員の任期等について報告＝

＝佐々木会長、榎本委員、中西委員より挨拶＝

３）事務連絡

事務局から委員会の今後の予定について説明

４）閉会